

## 説教要旨「始まりの弟子」



ルカによる福音書 5章 1～15節

イエス様がゲネサレト湖畔に立っておられると、教えを聞こうと群衆が押し寄せて来たため、イエス様はシモン（ペトロ）の舟に乗り込み岸から少し漕ぎ出させて、そこから岸辺にいる群衆たちに教えられたのです。そして話し終えると、イエス様はシモンにそのまま沖へ出て漁をするように指示します。シモンはその言葉に従いますが、それはイエス様の言葉を信じてのことではなくて、それが徒労に終わると予測しつつも、イエス様の顔を立ててのことでした。けれども彼らが沖へ漕ぎ出して網を降ろしてみると、「おびただしい魚がかかり、網が破れそうに」なるほど大漁となったのです。

この時、シモンはイエス様の足もとにひれ伏して、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです」と叫びました。この時はじめてシモンは、自分が生ける神の前に立っていることを自覚し、神を侮っていた自らの罪深さにひれ伏さずにはいられなかったのです。

神が共にいて下さること、それはこの上ない恵みです。しかし、それは恵みであると同時に、あまりにも恐れ多いことでもあるのです。わたしたちの抱える、悩みも、苦しみも、悲しみも、喜びも、全てをわかっていて下さる神様は、それと同時に、わたしたちのやましい思いまでも全てご存じの方だからです。神の前に立っているにも関わらず、のんきに構えていられるほど、自分が善良な者だと言い切れる人がいったいどこにいるのでしょうか。

シモン・ペトロのように、わたしたちもまた、主の前にひれ伏して、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです」と叫ばざるを得ないの者です。そのようなわたしたちに、「恐れることはない」とイエス様は語りかけてくださるのです。この「恐れることはない」とのみ言葉は、罪の赦しの宣言です。

わたしたちの罪をすべてその身に引き受け、それを背負って十字架にかかり死なれたイエス様が、この赦しのみ言葉と共に、その御業のために招いてくださっているのです。

(2023・1・15 説教者：稲垣真実)